陳　情　文　書　表

（子ども若者はぐくみ局）

受理番号	５０５９	受理年月日	令和８年 10 月 23 日
件　名	桃陽病院・桃陽総合支援学校の存続・拡充		
要　旨	京都市桃陽病院は、1952年に小児結核保養所（旧桃陽学園）として開設されて以来、時代の変化に応じて、慢性疾患や心身症、発達障害などの子供たちの心と身体を守ってきている。1979年からは療養学校（現京都市立桃陽総合支援学校）との連携体制が整備され、医療と教育を一体的に受けられる環境が構築された。子供の心・体・学びの全てをトータルに支える仕組みは、全国的にも数少ない貴重な存在である。 こうした中で京都市は、京都市桃陽病院の今後の在り方に関する検討会を設置し、赤字と患者減を理由に病院の縮小・廃止を検討している。 これは、子供たちの最善の利益を守ってきた桃陽病院の機能を過小評価し、効率性・経済性優先の判断と言われても仕方がないのではないか。 ついては、京都市の責任で、子供の医療・福祉・教育を支える桃陽病院・桃陽総合支援学校を拡充し、存続することを願う。		
陳情者			
回付委員会	文教はぐくみ委員会		